

茨南だより

3 S
+ 1察知
誠意
スピード感
改革意欲

NO. 4 2025. 7. 17

有意義な夏休みを

県南教育事務所長 佐藤 賢信

7月17日をもって、所課長訪問の前半が終了しました。5月から7市町、115校を訪問いたしました。いずれの市町においても、各校に対する教育長の皆様方の熱い思いと期待、そして校長先生方の経営ビジョンに託された願いを感じながらの訪問となりました。本当に短い時間の訪問でしたが、懇談で説明していただいたことが、教室や校内の環境、先生方の授業の実践にしっかり表れていました。学校教育目標の実現に向けて組織のまとまりを感じました。大変お世話になりました。

さて、夏休みに入り、各校とも予定された研修等に熱心に取り組んでいることと思います。前号でも書きましたが、学校の教育活動の一連の流れの中で、RPDCAのマネジメントサイクルを機能させていくわけですが、各校が学び合い高め合える教職員組織であるためにも、この夏休み中に7月までの成果と課題について、自己目標と絡めながら十分に「省察」し、9月からの実践に生かしていただきたいと思います。

さらに、夏休み後も子どもたちが順調に学校生活をスタートできるよう、不登校や気になる子への積極的な関わりや支援をお願いします。SNSを介した「闇バイト」の事件のように、子どもたちが犯罪に巻き込まれることのないよう、より一層の警戒と未然防止につながる指導をお願いします。

もちろん、休暇を取って、心身のリフレッシュを心がけることも大切ですね。有意義な夏休み期間をお過ごしください。

人 事 課

★★笑顔いっぱいの学校を目指して★★

7月までの管理訪問では、授業の参観だけでなく、諸帳簿の記載状況や施設設備の管理状況の確認をさせていただき、ありがとうございました。ここで、前半の管理訪問を終えて、再度確認しておきたい重要な3点についてお伝えします。

(1) 服務規律の確保について

○不祥事ゼロに向けて、「自分事として考える」ことに加えて「個人・組織での行動へ」つなげることができるよう「校内コンプライアンス研修」を確実に実施すること。

○風通しのよい職場づくりに全教職員で取り組み、不祥事の未然防止を図ること。

(2) 特別支援教育について

○特別支援学級に在籍する一人一人の児童生徒に対して、その子どもの困難さを改善・克服するための教育課程を編成すること。(児童生徒一人一人に対応した、困難さを改善・克服するための自立活動が実施されていること。)

(3) 学校における働き方改革について

○勤務時間の中で一人一人の教職員が業務効率化や削減を図り、創出した時間において、児童生徒の学びを引き出すよりよい授業づくりへの取組(教材研究など)を実践すること。

児童生徒にとっても、教職員・保護者・地域にとっても「笑顔いっぱいの学校」となるよう個人及び組織としての取り組みをお願いいたします。

総 務 課

諸手当の受給者における事情変更について

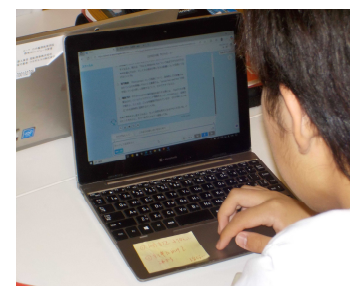
教職員の皆さんが受給している諸手当について、住所や扶養状況など変更となる予定がありましたら、必ず事務職員へ報告し、書類の提出を求められた際は、毎月提出の書類と同様に速やかに提出をお願いいたします。

提出が遅くなりますと県への報告など新たな業務が発生してしまい、事務職員だけでなく皆さんにも大きな負担となりますので、ご協力をお願いいたします。

7月から管内30校を対象に給与事務実状調査を実施いたします。この調査は、給与事務の円滑化、適正化に資するよう実施するものですので、対象となった学校におかれましては、調査へのご協力をお願いいたします。

各校には、各種調査結果から明らかとなった学習上の課題の改善に向けて、「課題を自分事として捉え、社会とつながりを主体的に追究していくことができる授業」や「生成AIの活用を通して、書く力を高める授業」を実践し、「探究的な学び」を推進していただいています。

6月30日（英語）、7月7日（社会）に行われた第1回の研究授業後には参観者による熱のこもった研究協議と、文部科学省教科調査官や水戸教育事務所学校教育課指導主事から「子どもが学習計画をつくり、子ども自身が見通しをもつことが大切である」、「授業のねらいに沿った学習活動となるよう、その活動の目的を子どもとも共有することも必要である」等のご指導があり、大変充実したものになりました。第2回は参集型の公開授業となり、英語は10月22日、社会は11月10日に実施します。さらに「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を目指していきます！



牛久市教育委員会

「主体的・対話的で深い学び」のアップデート

牛久市では、昨年度教育大綱を定め、それに基づく施策である教育振興計画を策定しました。目的は「未来を拓き、地域を担う人づくり ～未来を自分らしく生き、自分や社会の課題を解決しよう～」です。本計画は「牛久市第4次総合計画」第2期基本計画との整合を図り、令和7年度から令和10年度までの4年間となります。

これに先駆けて令和6年度には、これまでの協働的な学びの良い部分を残しつつ、学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて「意識と組織のアップデート」を掲げ、授業力向上に努めています。具体的には3点です。1点目は、ねらいを明確にした学習課題の提示、個で考える時間の確保、まとめや振り返りを一体的に充実させていきます。2点目は、授業のねらいに応じ、授業者が学習形態を自由に考えられるようにしました。先生方からは、「柔軟に学習形態を選択することができ、子供たちの表情を確認しながら授業が進められる」「これまで短い時間で行われていた教師の話や説明もしっかりと行うことができる」という声も聞かれます。3点目は自主課題設定型研修の実施です。皆が同じテーマで同じ内容の研修を行うのではなく、教員個人が研修テーマを決めグループで研修を行うことで、キャリアステージを考慮し教員各々に合った資質・能力の向上を目指しています。

また、今年度は「意識とスキルのアップデート」を掲げ、さらなる授業改善を推進しています。市教委の取組としては、授業づくりチェックシートを作成し、授業者に必要な視点を共有しています。

実際に授業参観をする中で、授業改善は着実に進んでいると強く実感しています。今後も児童生徒の学びを支え、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて尽力していきたいと考えています。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりチェックシート

～抜粋～

自分の授業を確認するためのシートです。全部の項目を1時間の授業で達成するためのものではありません。時折、自分の授業を振り返ってみましょう！

	授業者の視点	学習者の視点
主体的な学び	☐ 既習事項を振り返らせ、現在の解決すべき課題と結び付けられるようにしている。 ☐ 子どもがワクワクする、子どもの気づきや疑問から学習課題を設定している。 ☐ 予想を出し合う等、子どもが学習課題を解決する方向性（何に注目し、どう調べ考えようか）について見通しをもてるようにしている。 ☐ 子ども一人一人が自分で考える時間を設けている。 ☐ 子どもが本時のねらいに沿ったまとめを行っている。 ☐ 子どもがその日の学びを振り返る時間を設け、自分の学びの質と内容を自覚できるようにしている。 ☐ 振り返りを通して、学校と家庭の学びの接続を意識している。	☐ 学ぶことに興味や関心を持つ。 ☐ 学習活動や課題解決に向けて見通しをもつ。 ☐ 粘り強く取り組む。 ☐ 自己の学習活動を振り返って次につなげる。  一人一台端末を効果的に活用すると「主体的」「対話的」「深い学び」がより実現できるようになるね！
対話的な学び	☐ 協働して解決をする必要性（ヒト、モノ、コト）のある問題、学習課題を設定している。 ☐ 子どもの思考（間違い、つまづき）に即して教師が子どもの学びを引き出す発問をしている。 ☐ 子どもの思考を促し、1時間の流れが分かる板書をしている。 ☐ 教科書等の考え方を含めた様々な考え方に向き合う活動を取り入れている。 ☐ 地域の人との対話でも、お互いの本音を引き出し、子どもたちの学習に寄与するやりとりができるようにする。	☐ ペアやグループ等での協働的な学びを通じ、自己の考えを広げ深める。 ☐ 立場や根拠を明確にして自分の考えを説明する。
深い学び	☐ 毎時間、ねらいを達成した具体的な子どもの姿（8評価）を明確にしている。 ☐ 子どもが困難を見取り、適切な手立てをしている。 ☐ 知識・技能の定着を図る場面（習得、活用、探究）をつくっている。	☐ 何が分かったか、どう知識・技能を生かすかが分かっている。 ☐ 知識を相互に関連付けてより深く理解する。 ☐ 情報を精査して考えを形成する。 ☐ 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。